

だれでも幸せになれる教えです!!

ひかり

2023年

1月

209号

- ◇利他の心を育もう
- ◇身の施し、奉仕の功德
- ◇病気は気からの事実



利他の心を育もう

『思いやりのある家庭と社会を作ろう！』

真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

◇慈悲の世界「真生楽園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声かけの実践

◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きつとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）

* 次回行事のお知らせ *

厄除け縮分祭

開催日 2月5日(日)

会場：総本山真生寺、大阪教会

※詳しくは各会場にお尋ねください

※お申し込みは一週間前までに!!

★真生寺 除夜の鐘



漆黒の闇に浮かぶ大観音様を鐘つき堂より望む



除夜の鐘を撞かれる会長先生



國井、岐阜壮年副部長

令和4年大晦日、夜10時～11時に年越しの除夜の鐘が奉撞され、YouTubeによる短時間のライブ配信も行われた。

☆真生寺初詣（元旦、二日）



ご真教法話をされる会長先生



健康長寿の福聚の鐘初うち



仏さまの声、金色短冊を拝受

☆大阪教会初詣



短冊の説明をされる谷口教会長



役員皆さんも新年初鐘うち



新年の短冊を引かれるご信者



長寿健康の福聚の鐘と短冊を拝受



開祖さまのみ教え

開祖 田中 偉仁

大自然の前には人間の知恵など到底及ばない。どれだけ人間の技術が進んでも、一たび大自然が動けばひとたまりもありません。

われわれ人間は科学技術の進歩で「人間にできないことはない。この世の中は人間様のものだ」ぐらいに慢心し過ぎてはいないでしょうか。

私達は生きていくのではなく、大自然に生かされているのです。「帽子は頭に靴は足に」こんなごく当たり前のことも、科学が進み自然の原理に逆らった行いは、古き帽子を足に履き、真新しい靴を頭にかぶるようなもので、どう考えてもおかしいのです。私達の生活にこのような間違いはありませんか。枝葉が繁茂するのも目に見えない根のお蔭、根を切ってしまうと花が咲くということがあるでしょうか。大自然に逆らった行いを続けていけば、企業も家庭も遅かれ早かれ滅びゆくのは目に見えています。

(1996年、真実に生きるひかり100号より)

ぶし眞教法話

会長 田中庸仁
たなか つねひと



◇利他の心を育もう

新年あけましておめでとうございます。毎年交わされる新年の挨拶ですが、新年を迎えると何がおめでたいのでしょうか？それは去年とは違う新しい芽を出すからです。

令和五年は卯年です。卯という字は地上に新しく双葉が芽を出し、いよいよ伸びようという姿です。（別冊、運勢と展望を参照）

眞生会は、毎年新年になりますと今年の信仰目標を発表します。今年は「利他の心を育もう」です。利他の心とは一言でいうと「相手のことを思いやる心」です。先月十二月号に「忘己利他、自利利他」の意味を詳しくお話ししましたので是非もう一度お読みください。

最近は、国も家庭も親子も夫婦も自分のことを優先にし過ぎています。だから戦争や紛争が起き、世界各地に難民が溢れ、家庭においては育児放棄や児童虐待、若年離婚や熟年離婚が増え続けているのです。

誰でも自分が一番かわいく大切でしょうが、お互いがちよつと相手のことを思いやる心があれば、家庭も世の中ももつと住みやすくなるはずです。これを慈悲の世の中というのです。

しかし、一朝一夕に慈悲の心、利他の心が育つものではありません。「三つ子の魂百まで」「門前の小僧、習わぬ経を読む」の諺のように、小さなうちから親と一緒に仏縁に触れ、仏様に手を合わせる習慣があつてこそ、自然と身につくのです。子供に強制するのではなく、親の後ろ姿を見て子供は育つといわれるように、子供から尊敬され信頼される信仰者になることが大切なのです。最近、小さなうちから信仰に触れさせることを良い宗教もカルト宗教も十把一絡げに「宗教的虐待とか束縛」と決めつける風潮は大変危険です。

「学歴、お金、地位」さえ得られれば、人生の勝ち組であるという利他の心の伴わない世の中は、弱肉強食の殺伐とした世界になってしまいます。

◇身施（奉仕）と法施の功德

宿泊業を営む老婦人が心臓弁膜症を患い、急に動いたり立ち上がる時に心臓が踊るようになったのです。医者いしやの診断は、心臓移植しか治る方法はないという事です。

このご婦人は、開祖さまの「無理をしないで無理をする」という教えを信じ、喜んで仕事に励むと決めておられました。ところが、今度は二年ほど前に肺がんが見つかったのです。

「先生、もう老体ですから、手術をしても抗がん剤治療をしても体力が持ちませんから、手術も治療もせずにこのまままで頑張ります」と誓願ちかまされたのです。

「あなたがそのように決心されたのなら、九十の齡よわいまで長生きできた丈夫な体に生んでくださった親を念じ、寿命の来る日まで健康に働けますようにとお願いし、そしてこの尊い妙法の教えを説いて下さった仏様とその教えを伝えるために真生会を開いて下さった開祖さまを心から念じることです。仏様を念じと開祖さまを念じてこそ、仏祖・開祖のお徳の御光みひかりがあなたを守って下さいませ」とご指導したのです。

そして、月に一度総本山の法座の当番をお付けし、体験法話の法施の功德を積んで頂いているです。このご婦人の開祖さまの教えに基づく体験法話は、多くの人に感動と勇気を与えているのです。その功德は計り知れません。財施の百倍千万倍の功德に守られると経典にあります。

そして、法要行事の時は、若いご信者さんと一緒に幕をたたんだり物を運んだり、後片付けの身の功德を積んでおられるのです。不思議とその時は体がすいすいと動いて心臓が踊らないのです。数か月に一度検診に行かれるのですが、この頃は主治医がガンの影が無くなってしまったと首を傾げられるのです。ここにも妙法の不可思議なご守護が証明されているのです。

◇病気は気からの事実

信仰の三本柱は「解・信・行」です。つまり、教義、信じる心、体験（実行）のことです。「信」から信仰に入る人が多いのですが、カメラの三脚と同じで、どれか一本の足が短かったり、一本足であれば不安定で倒れてしまいます。

この三つの柱をバランスよく整えていくことが、正しく信仰を続けていくコツです。教えが深く解れば、信が強まり、信が強まればしっかり実行が出来、

実行が出来れば教えがさらに深まるのです。このサイクルがどんどん大きくなっていけば、功德がはつきり出るようになります。

しかし「信じる一念岩をも通す」という格言があるように「信の力」は信仰の原動力と言えます。

先日もある老婦人から嬉しい報告がありました。

このご婦人は、昨年九月頃からイボ痔の痛みが強くなり、「病氣平癒、痛み解消の健康祈願をしてほしい」とご供養の申し込みがあり、毎朝総本山でご祈願させて頂いておりました。

医療ミスでない限り、病氣は何らかのストレス、つまり自分の心使いが作ったものだから、心構えを切り替えれば快方に向かうものです。

世の中の現象は全て諸法実相しよほうじつそごう、結果現象の中に原因が現れているのです。法華経方便品の十如是じゆうによぜの教えに「本末究竟等ほんまつくきやうとう」とあります。本と末とは等しい、

原因と結果は同じである、蒔いた種と稔った実は同じという真理です。

そこでこんな説法を致しました。

「物を排泄はいせつする肛門は下の口です。ものを食べる口は上の口です。イボ痔で

下の口が痛むとすれば、上の口で愚痴や相手を攻めたり腐くさすような言葉を吐かないことです。治療をするにもこの心使いを切り替えることが根本治療ですよ」

「先生よく解りました。心当たりがあります。早速に切り替えるよう心掛けます」と何十年というベテラン信者さんですが、素直に聞き入れられたのです。後日、掛かり付けの医者に再度診てもらおうと専門医にかかって手術した方がよいと言われ、専門医に掛かられたのです。

すると、専門医は「少し腫れていますがイボ痔ではありませんから、手術の必要はありません」と言われ、薬も出なかったのです。

「えっ！痔じゃなかったんだ。手術も必要ないんだ。良かったー」と、この老婦人は専門医の診断も素直に受け止め、大安心されたのです。

すると不思議なことに、それ以来疼痛とうつうも無くなり、指で患部を触っても腫れもなく治ってしまったのです。漫画のような話ですが、まぎれもない事実なのです。本当の信仰には奇跡やご守護が必ず現れます。

しかし、イワシの頭も信心からと闇雲に祈ったり頼んだりするものではなく、「解・信・行」の調和のとれた信仰に奇跡のようなご守護が頂けるのです。

釈尊物語

28

◆阿難尊者の真剣な聞法◆

阿難が二十歳になった時、お釈迦様は五十五歳になられ、身の回りのお世話をする係が選ばれることになり、若くて記憶力のいい阿難が推薦されました。

阿難は「私にはとてもそんな大それたお役はできません」と固く辞退していましたが、みんなが強く勧めたので、阿難がその大任に就くことになりました。現代でいえば、秘書のようなものです。

それからお釈迦様が八十歳でお亡くなりになるまでの二十五年間、常にお側で仕えることになりました。

阿難はいつもお釈迦様の近くにいたので、多くの教えを聞く機会に恵まれ、多聞第一と称されました。

その上、阿難の聞法心は、想像を超えた真剣さでした。

ある時、阿難の背中にできものが出来、触るとものすごい痛みが走ります。

お釈迦様にご相談して、名医の耆婆ぎばに見てもらおうと、これは化膿かのみしているので、切り取らないと毒が回って危険だと見抜かれます。当時は麻酔ますいがなく、直接刃物で切り取るには大変な痛みを伴うので、どうしたものかと考えていると、耆婆は名案を思いつきます。

阿難は、お釈迦様の説法を聴聞する時

には、微動びどうだにもしないので、その時に切り取るのが一番痛くないのではないかと、というものです。

阿難も、「ではそれではお願いします」といっているので、お釈迦様にお許しを頂いて、いよいよ説法の日を迎えました。

お釈迦様の尊いお話が始まると、阿難は全身を耳にして真剣に聞き入ります。阿難がお釈迦様の説法に集中したところを見計らって、耆婆が切開を始めました。普通はあまりの激痛に、大人でも叫び声をあげてのけぞるのに、阿難は微動だにしません。

やがて手術を終え、お釈迦様のご説法が終わって、

「すごい精神力ですね。痛くなかった

ですか？」と阿難に尋ねると、

「え？何の話ですか？」

「できものの切開手術の話ですよ」

「えっ？そんなことしたんですか？」

麻酔なしの外科手術にまったく気づいていなかったといわれます。

阿難尊者はそれほど真剣に聞いていたので、一回聞いたことは一言一句忘れなかつたといえます。

阿難の真剣な聞法の記憶力のお陰で釈尊亡き後、八万四千という膨大な經典が残ったのです。

私達も人様や子孫に細大漏らさず教えを伝えられるよう、日々真剣にご法話を学ばせて頂きましょう。

今月の運勢（2月）

（2023年2月4日～3月5日）

一 白水星

物事を完成させる時だが、難問が待ち受けているので一気には進めない。時が来るまで腰を据えてじつと待つこと。正しくして待てば、いずれ冒険も可能になる。チャンスが来たら一気に動くこと。

二 黒土星

大いに前進発展し、大きな成果が期待できる。但し、正道を踏み外してはいけない。何が起こきようと決して浮かれず、また逆に上手くいかない時でも安易に絶望しないこと。

三 碧木星

変化の時だが積極的に

動くことよりは、出

しやばらず控えめくらしいの方がちょうどいい。攻めるよりは守りを、前進よりは維持を、昇るよりも後退を心掛けるべき時である。

四 緑木星

脚光を浴び情熱が盛んとなり活動的になる。家族や仲間と互いに助け合い和合すれば大きな力となる。些細なことで争いが生じ、崩壊する恐れがあるので注意すること。

五 黄土星

衰運の谷間を迎えている。上手くいかない時も腐らず、今は耐え忍ぶ時。人間関係を大切に

にし、本来の面倒見の

良さ思いやりの心で接しよう。先祖供養を忘れないように。

六 白金星

お互いの目指す所が反対で努力してもなかなかまとまらない。慌てず腹をくくって時を待つことである。能力を内に隠して表に出さないこと。目立つと疎まれることになる。

七 赤金星

自分から積極的に動けば、相手は喜び従ってくれる。但し相手に求めないことが大切。強制すれば凶となる。多くの人が追従してくれるが決して有頂天に

なつてはいけない。

八 白土星

処理しなければならぬ問題が山積みしている。高運期なのでこの際一挙に大掃除してからやり直せばよい。但し、丁寧かつ慎重に行うこと。この混乱を乗り越えれば安泰の時が訪れる。

九 紫火星

八方塞がりの状況である。今は大きな行動をせず、新しい計画は控えた方がよい。じっくり腰を据えエネルギーを蓄える時。周囲の状況がよく見えるのでしっかりと観察し、今後の計画も見直す好機。

しあわせ眼鏡

失敗を恐れる方が失敗を犯すよりも悪い。
失敗すれば何かが学べる。
自分の力でどうにもならないことは心配するな。
自分の力と能力で何とかなることは頑張ればよい。
自分の力と能力でどうにもならないことは悩まないことである。

お気軽にご連絡ご相談下さい

- | | | |
|----------|-----------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地
TEL 058 - 235 - 7304 |
| 【岐阜教会】 | 〒500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19
TEL 058 - 262 - 9615 |
| 【大阪教会】 | 〒532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10
TEL 06 - 6308 - 5637 |
| 【名古屋教会】 | 〒454-0808 | 名古屋市市中川区九重町 3 - 10
TEL 052 - 351 - 3904 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送りします。詳しくはお尋ねください。